第１分科会テーマ　各教科等を合わせた指導　　生活単元学習

一人一人が主体的に活動できる授業づくり
～生活単元学習における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点から～

提　　案　寄居町立桜沢小学校　教　諭　　木　村　彩　乃

１　はじめに

新学習指導要領に基づいた児童生徒の資質・能力の育成に向けて、ＩＣＴを最大限活用し、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。特別支援学級では、在籍する児童が複数学年にまたがっていたり、障害の状態や特性が異なっていたりしていることから、もともと児童の実態に応じた個別学習や集団での学習が重視されている。そこに「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実という視点をもつことで、他者とかかわりながら主体的に活動できる生活単元学習の授業づくりに取り組んだ。

２　学校・学級等の概要

（１）学校の概要

前任校の寄居町立男衾小学校は、明治７年に開校し、来年度１５０周年を迎える歴史と伝統のある学校である。学校教育目標「真の学ぶ力を身につけ　たくましく生きる児童の育成」のもと、男衾小学校では「夢を育てる学校」、男衾中学校では「夢を叶える学校」を掲げ、これまでにオリンピック選手など世界で活躍する偉大な先輩も輩出している。児童数３９８名、通常学級１３学級、特別支援学級２学級の他、巡回型の発達・情緒障害通級指導教室が１教室設置されている。

（２）学級の概要

特別支援学級には、知的障害特別支援学級に６名、自閉症・情緒障害特別支援学級に６名が在籍し、学年は１～６年にまたがっている。学級の合言葉を「はきはき　にこにこ　ぐんぐん」とし、何事にも「やってみたい。」と意欲的に取り組む児童が多いが、自信のなさや興味・関心の狭さから活動に取り組むまでに時間がかかる児童や、他のことに気が逸れて活動がとまってしまう児童、自分の気持ちを伝えることが難しい児童等、実態は様々である。

３　取組の実際（具体的な実践）

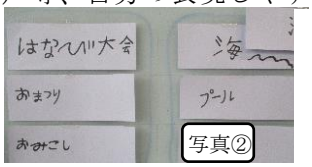
本単元「夏を楽しもう」は、季節の特徴を生かした学習活動を取り入れながら、楽しく活動するために工夫する力、文字を読んだり書いたりする力、数を正しく数えたり計算したりする力、必要なことを説明したりコミュニケーションをとったりする力の育成を図ることをねらいとしている。

（１）　「個別最適な学び」の視点

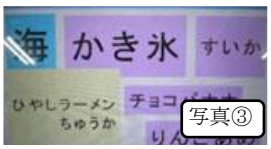
① 児童の実態に応じた表現方法

夏の季節の様子について、春から変わったことや夏に楽しみなことを考える場面で、図鑑の中からを選ぶ（写真①）、自分の言葉で伝え教師が紙に書く（またはそれをなぞる）、自分で紙に書く（写真②）、タブレット端末に入力する（写真③）等、自分の表現しやすい方法を選べるようにした。書くことに抵抗がある児童も、タブレット端末に入力することで、たくさんの考えを書いていた。

写真①



写真②



写真③

② 板書の工夫、児童の実態に応じたワークシートの作成

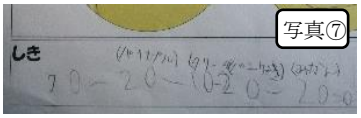
「たなばたパンケーキを作ろう」の準備では、パンケーキのデコレーションの材料を７０円以内で買う活動を設定した。全体で材料１つ１つの量と値段を確認する際、提示資料を児童の課題に合わせ、抜けている文字を書いたり（写真④）、１つ分の値段を計算したり（写真⑤）するようにし、全児童が前に出てて発表することができた。

写真④

写真⑤

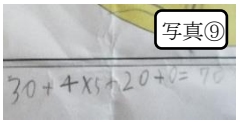
材料を決めるときに使うワークシートは自分で選び、１０円玉に丸をつけたり（写真⑥）、学習した四則計算を使って様々な計算式を立てたり（写真⑦⑧⑨）と、じっくりと考えていた。

写真⑥



写真⑦

写真⑧


写真⑨

③　児童一人一人の興味・関心に応じた学習活動

夏祭りの準備では、低学年が下校した６校時を使い、まず高学年だけで授業を行った。どんなお店をやりたいか、それにはどんな材料が必要か、どんな手順で行うか等を考え、次の時間からはそれぞれがリーダーとして低学年に教えながら準備を進めていくよう伝えておくことで、張り切って取り組んでいた。（写真⑩⑪）

写真⑩

写真⑪

（２）　「協働的な学び」の視点

①　児童同士の学び合い（なかまタイム）の設定

夏の季節の様子について、春から変わったことや夏に楽しみなことを発表する場面では、同じ考えや似た考えのときはその都度手を挙げて発表するようにし、自分の考えと友だちの考えを比べながらよく聞いたり、仲間分けを考えたりすることができた。（写真⑫）

写真⑫

夏祭りの準備では、高学年が事前に作った看板を持ちながら、低学年に向けてどんなお店をやるかを発表し、それを聞いて全員が自分でやりたいお店を選択できた。それぞれのお店のリーダーを中心に、高学年は自分が調べたり考えたりしたことをどうやったら分かりやすく伝えられるかを考え、低学年は自分でできそうなところは自分でやり、困ったときには聞いたり手伝ってもらったりし、協力し合いながら準備を進めていた。（写真⑬⑭）

写真⑬

写真⑭

②　発達段階や個々のねらいに応じたグループ分け

夏祭りのお店やさん、お客さんの前半・後半の役割分担や、たなばたパンケーキ作りの買い物（写真⑮）では、児童の実態やねらいを考えてペアを決め、練習ではやりとりのまねをしたり、アドバイスをし合ったりできた。（写真⑯）

写真⑮

写真⑯

４　成果と課題

児童の興味・関心やそれぞれの得意なことを活動に取り入れること、自分のやりやすい方法を選んで取り組むことにより、集中力が持続したり、苦手なことにも取り組もうと少し気持ちが前向きになったりと、主体的に学習に取り組む姿が見られた。また、教師主導ではなく、「なかまタイム」を意図的に設定することで、児童同士のかかわりが増え、話し合ったり協力し合ったりしながらよりよいものにしようと活動を進めることができた。

調べ学習等の個別学習を、協働学習での話し合いや制作に生かすことはできたが、そこでとどまってしまった場面が多く、さらに振り返りの活動など個別学習にかえすことで、学びの成果が分かり、より深い学びにつながったのではないかと思う。

５　おわりに

実践を通して、児童が意欲的に楽しく取り組んでいる姿が印象に残った。「できた！」という達成感やともに学ぶよさを多少なりとも味わうことができたのではないかと考える。児童の思いや一人一人のもつよさを大切に、他者と関わりながら主体的に学習に取り組む児童の姿を具体的にイメージし、今後も授業づくりを行っていきたい。

また、今回の実践は、自校の特別支援学級２学級合同で行ったが、新型コロナウイルス感染症対策も緩和されてきた今、交流学級の児童や隣り合っている中学校の特別支援学級の生徒を招待したり、オンラインで他校の児童と合同学習をしたり、多様な他者と協働する機会をつくっていけるとよい。